

■小中学校適正配置基本計画第二段階に係る説明会(第3回)開催結果

◇説明会開催状況

開催日時	対象	出席者数(名)	会場
平成30年7月25日(水) 18:30~	横林小学校区 全体	11	横林小学校
平成30年7月28日(土) 10:00~	関谷小学校区 全体	8	ハロープラザ
平成30年7月29日(日) 10:00~	就学前児童 保護者	4	ハロープラザ
平成30年7月29日(日) 13:30~	大貫小学校区 全体	12	大貫小学校
平成30年8月4日(土) 10:00~	箒根中学校 保護者	4	ハロープラザ
平成30年8月4日(土) 13:15~	全地区対象(自由参加)	10	ハロープラザ
計	全6回	49	

◇質疑概要

○計画・方向性(案)関係

No.	質疑・要望・意見	回答	参考
1	地区によっては、他地区の小学校を選択するケースも出てくると思う。実際にどういう形の統廃合になるのか。	箒根地区の3小1中を、9年制の義務教育学校にする計画です。大貫・横林両校の複式学級解消を第一に考えましたが、箒根中の将来も同じく重要であることから、中学生に対しても質の高い学習環境が提供できる義務教育学校を設立しようと考えたところです。	就学前
2	市の計画としては中央(西那須野地区などの市街地)に集約する方向性もあったと思うが。	関谷地区(区画整理地付近)も市の計画上、居住誘導地域となっていることから、候補としました。	就学前
3	小学校の統合はやむを得ないが、小中一貫校となるのは反対である。小学校6年、中学校3年それぞれに成長がある。単に複式学級を解消するだけなら、他にも方法があるのではないか。	複式学級の問題以外に、箒根中の存続も懸念されています。少しでも魅力ある学校をと考えたほか、義務教育学校であれば、大規模でなくても教員数を確保しやすいといったメリットもあり、中学生の学習環境の確保にもつながると考えました。義務教育学校への移行は相当の準備期間を要するため、生徒数が減少してからでは遅いと考えています。	箒根保護者
4	市の理想に地域が賛同していない状況で進めることで、ますます箒根中生徒の減少に繋がらないか心配である。部活動の存続も心配しており、さらに拍車をかけてしまうのではないか。	100%の賛同は難しいかもしれませんが、保護者や地域の皆さまの意見を十分に踏まえ、理解を得て進めてまいります。	箒根保護者
5	義務教育学校設立は、塩原小中の児童生徒数の減少傾向を見据え、塩原小中との統合も含めたタイミングを見定めるのがいいのではないか。		箒根保護者
6	義務教育学校には賛成できない。昭和31年の合併で新塩原町が誕生したが、当時両地区の確執みたいなものがあつた。その後完成したアグリパル落成の際、近隣の市長から「これで塩原と箒根の確執はなくなった」との言葉をいただいたことがある。かつての塩原地区と箒根地区では、人口も逆転している。塩原小中も含めて全体で考えてほしい。	そうした考え方も多くいただきますが、塩原地区からの流出もとても心配しているところです。まちづくり全体の中でそうした問題が解消されない限り、塩原地区との学校統廃合は難しいと考えます。一方で、箒根中生徒も減少傾向であることから、早めの対応が肝心であると考え、義務教育学校設立を提案したところです。	箒根保護者
7	塩原全体で考えた方がよい。最短で義務教育学校が設置される見込みの平成34年頃は塩原小中も相当人数が減っているのではないか。		箒根保護者
8	どちらの地区も高齢化が激しいが、財政負担も考慮し、新しいハードはもういらなと思う。	箒根中校舎は築40年を経過しており、近い将来施設の更新が必要となります。学校に求められる安全性が年々高まる中、財政面のみで言えば、単独の学校が存続する方が負担は大きいと考えられます。	箒根保護者

No.	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答	参 考
9	これまでの小規模特認校制度の成果を見ても、関谷地区には人が集まりにくいのではないか。	地域によっては、高校通学への不安をよく耳にすることから、交通の便が課題の一つと考えています。これは、教育委員会だけで解決できる問題ではありませんが、そうした地域における現状を踏まえ、庁内で連携し取り組んでいきます。	横林地区 箒根保護者
10	大田原市では、羽田小が38名、福原小が27名、須賀川小が33名と小さい学校も多いが、統廃合の話などはあるのか。	平成30年4月に佐久山中と親園中が統合しました。また、金田北中学校区に羽田小と市野沢小があり、各校の在り方についてそれぞれ検討されていると思うが、具体的な話は聞いておりません。	箒根保護者
11	平成22年計画策定時、パブコメで意見を提出した。平成27年に国から手引が出され、これに基づき、教育振興基本計画ができた。そして今、適正配置基本計画が出されたが、この間の空白があり、学区再編など検討内容が聞こえてこず、『検討は打ち切った』というような話も聞こえてきていた。また、今回示された計画期間が平成33年度で終了となっており、あまりにも期間が短く感じ、どれだけの人理解してくれるのか心配である。もっと早くに説明をし、意見を聴取すべきであった。 大田原市では中長期的な将来の統廃合の計画が提示され、それに向けて継続した協議がなされている。	平成22年計画に基づくほか、平成27年に国が示した手引に従い、保護者を中心に意見交換を行ってきました。その間、地域の皆さまへの情報発信が不足していた点は反省します。 学区再編の検討等、これまでの検討経過につきましては、別添資料にて詳細御説明します。	箒根保護者
12	義務教育学校設立時期まで決まっているのであれば、施設改修にどのくらいの費用が掛かるとか、施設の配置がどうなるかがわかる資料も示して説明すべきだと思う。そういうことが何も見えない中で、新しい学校をつくると言われても、中々判断が難しいし、更なる問題点も見えにくくなってしまう。	あくまで児童生徒の学習環境を第一に考えましたが、より具体的な内容を示すことによって、決定事項だとの印象や財政効率を優先しているなどの印象を与えかねない状況を危惧し、説明の仕方に細心の注意を払い、『対話』による進め方を心掛けました。 今後は、図面などの資料も交えながら、より具体的な御説明を行います。	箒根保護者
13	現状と比べ、費用面ではどう変わるのか。	義務教育学校となれば、中学生が入る校舎の新築や手狭な体育館の建替え、プール新築のほか、スクールバス運行経費などが必要となります。一方、学校の維持管理経費や、長期的には学校施設の建替費用が削減できると考えています。 こうした費用面の算出は、計画の進捗に合わせて行っています。	自由参加
14	教員の人件費などはどうなるのか。	教員数は、関谷小と箒根中の教員数を足した人数程度となる見込みです。トータルで見れば、県と国が負担する教員数は減る見込みであるため、国県の負担は減ることになります。	自由参加
15	大貫小と横林小の教員分程度は削減できるということか。	そうなる見込みです。	自由参加

○義務教育学校(小中一貫校)関係／学校の魅力化関係

No.	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答	参 考
1	「特色」はどういう場で検討していくのか。	準備委員会内の各部会で検討していきます。本市では各中学校区で小中一貫教育を進めているので、そうしたものもベースに検討します。	関谷地区
2	義務教育学校は先生の数に十分に配置されるとあったが、特色を出すための人員が確保できるということか。	教員数は児童生徒数に応じて確保されますが、義務教育学校の場合、小中教員の相互乗入れ授業などを実施した結果、特に中学校教員に空き時間が多く確保できる傾向がありますので、こうした時間を活用していきます。 また、通常の教科は全国统一ですが、それ以外に何を特色とするかは皆さまと考えていきます。	関谷地区
3	小学校のみ、または中学校のみの免許しか持たない教員は配置されないのか。	必ずしも小中両方の免許を持っている教員だけが配置されるわけではありません。また、小学校の英語授業も増えており、この免許をどうするかはまだ方向性が決まっていなところもあります。 さらにここ数年で、県内でも複数の義務教育学校が設立される見込みであり、小中免許を持つ教員の需要が増えることが予想されますが、小中免許や男女のバランス等を考慮しながら、教員の配置を考えていきます。	関谷地区

No.	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答	参考
4	特色の検討は今後とあったが、説明会出席者が少ないところもある中で、実際どういふメンバーで検討していくのか。	計画が正式に決まった後、準備委員会を設置し、その中に部会を設けて検討していきます。誰を部会のメンバーにするのか（PTA代表や地域住民等）、実際に何を特色として取り組むかなど、その中で検討することができます。	関谷地区
5	中学校のことを考えると、部活動等を理由とした指定校変更も増えてくると思う。保護者や地域の意見を聞きながら、部活動に力を入れ、流出を防ぐ手立てを考えてはどうか。	現状では、多くの団体競技はできないかもしれませんが、準備委員会ではどのような部活動に取り組むかは議論できます。施設一体型義務教育学校は、通常の科目は他の小中学校と変わりませんが、小中連携や教員の相互乗入れ等を考えると、非常に効果的です。また、地域学校協働本部を立ち上げ、学校運営に地域や保護者の皆さまの意見をより取り入れやすい仕組みを全地区に取り入れていきます。	大貫地区

○児童生徒関係

No.	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答	参考
1	学区がかなり広範囲となるが、それによって子どもたちの放課後や休日の過ごし方にどのような影響があると考えているのか。	確かに範囲は広がりますが、それぞれの地域で事情は異なるので一概には言えません。なお、学区が広範囲となることで、各地域に根付いた文化などを広く学べるという特色にできると考えています。準備委員会等で各地域の代表者に委員になってもらい、より多くの意見をいただきたいと思っております。	自由参加

○校舎・設備関係

No.	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答	参考
1	普通教室の空調はだいぶ整備されてきたが、特別教室（特に音楽室）には空調がなく、猛暑の中活動している。音楽部など、特別教室で活動する部活動への配慮も要望したい。	小学校の普通教室における空調整備は本年度で全て完了しました。中学校は来年度ですが、中学校では特別教室での活動が多いので、小学校の考え方と変えていく必要もあると考えています。予算の都合等もありますが、義務教育学校の施設整備についても皆さまとともに考え、精いっぱい努力していきます。	関谷地区
2	校舎や校庭は、現在の関谷小のまま使用するのか。部活動等を考えると、グラウンドは手狭ではないか。	学校の敷地面積は、箒根中よりも関谷小の方が若干広い程度です。中学生の校舎を増築しますが、駐車場などを周辺の市有地に設置するなど配置を工夫します。また、体育館は全校生が収容できる大きさに建て替えます。部活動については、スペースが不足するので、中学生の部活は箒根中跡地を活用し、体育の授業はカリキュラム編成により現関谷小校庭内でやりくりします。	大貫地区
3	義務教育学校の候補地が関谷小学校では狭すぎる。計画策定時の意見が反映されていない。せつかく作るならもっといい環境を整備してほしい。当時屋内体育施設も要望したが、結局ゲートボール場ができただけで終わってしまった。	教職員駐車場を敷地外に配置したり、部活動の一部を箒根中グラウンドで行うなどの工夫が必要ですが、学習活動は現在の敷地で問題なく行えます。	箒根保護者
4	部活で朝練もあるが、箒根中グラウンドを利用する場合、校舎が離れるのでやりにくくなる。	小学生は朝練を行っていないと思われるので、朝の活動は箒根中グラウンドに限定せず、関谷小グラウンドを利用するなど流動的に対応していきます。	箒根保護者
5	資料によると、平成30年度の児童生徒数が300人弱程度になるが、グラウンドは手狭ではないか。	小中それぞれの部活動等を考えると広さが足りないため、箒根中グラウンドを第2グラウンドとして活用するつもりです。また、体育の授業は複数のクラスが競合しないよう、カリキュラム編成で調整します。	就学前

○通学手段・スクールバス関係

No.	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答	参考
1	今の中学生は箒根中まで何で通っているのか。	自転車を通う子もいますが、地区によっては保護者の送り迎えが主となっているところもあります。	就学前
2	説明では、スクールバスの下校便数が1日2～3便とあったが、この便数で全地区網羅できるのか。	1台のバスで全地区回るわけではなく、金沢方面、大貫方面、横林方面それぞれの路線ごとに、低学年や高学年、部活動など下校のタイミングに合わせ2～3便用意するので不足は生じないと考えます。	就学前
3	道路整備など、通いやすい環境づくりも必要であるし、これまでも要望してきた。	具体的な対応として、毎年『交通安全プログラム』により、各学校から報告された通学路等の支障について、警察や県を交えて検証し、安全確保の対策を行っているところです。	箒根保護者

No.	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答	参 考
4	街道では車が飛ばして走るため、危険を感じるところもある。	歩道整備等の対応については上記のとおりですが、完全には難しいところもあることから、スクールバスでの対応を考えています。	就学前
5	予約ワゴンバスの使い勝手が悪い。目の前を通るバスに乗せてほしいと頼んだら、「予約がないから」と断られたこともある。	現在のところ、日々の通学に当たってはスクールバスの対応を考えています。なお、公共交通担当課では、平成30年10月にダイヤの見直しとともに、より利用しやすい形に改正を行います。これにより、現在の箒根中学校への朝の通学や部活帰りの利用もできるようになります。	箒根保護者

○部活動関係

No.	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答	参 考
1	生徒数が少なく、中学校の部活が成り立たなくなっている。かつて他校との連合も考えたが難しいものがあった。部活動は子どもにとってとても重要なことなので、他校との合同活動や個人競技への取組など、子どもたちの意見も聞いて、考えてほしい。	部活動を理由とした指定校変更がある現状は把握しています。国全体でも議論されていますが、小中合同で活動するなどやり方は工夫できるほか、『地域とともにある学校』をコンセプトに、地域の皆さまとともに協議しながら考えていきます。	関谷地区

○指定校関係

No.	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答	参 考
1	小学校は義務教育学校で、中学校から三島中に、ということも可能か。	可能です。学校が近ければ、小学校入学時から他の小学校に通うこともできます。	就学前
2	指定校変更制度利用者へのスクールバス対応を是非ともお願いしたい。この制度は、地域の生活圏に沿った制度である。	歴史的に指定校変更制度が根付いていることは理解していますが、制度の趣旨や市内各地区における制度利用者の現状等を踏まえると、対応は難しいと考えます。	横林地区
3	義務教育学校へはバスが出るのに、指定校変更する者に対応してもらえないのはどうかと感じる。	あくまで指定校は義務教育学校となることから、遠距離通学支援のためスクールバス対応を考えているところです。前述のとおり、制度の趣旨や市内各地区における制度利用者の現状等を踏まえると、対応は難しいと考えます。	就学前
4	指定校変更した場合のスクールバス対応は難しいとあるが、例えばゆ〜バス等で対応できないか。	公共交通担当課では、将来的に西那須野駅などを利用する高校生向けのダイヤ改正も考えています。これを応用し、西那須野方面の小中学校に通えるよう検討していきます。	就学前
5	毎日の送り迎えは保護者の負担が大きい。指定校変更した場合でも、市ではスクールバスを出せないのか。	送り迎えなどの条件を前提にした制度でもあり、現状では難しいと考えます。なお、指定校である義務教育学校へは中学生もスクールバスに乗れるといったメリットがありますので、是非検討していただきたいと思えます。	就学前

○通学区域審議会関係

No.	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答	参 考
1	審議会委員はどのように決めるのか。	学識経験者（大学教授）のように個別に依頼する場合と、各組織で代表者を選出してもらう場合があります。また、各校保護者の代表は各PTA会長に、小規模特認校推進委員会の代表は各委員長にお願いします。自治会代表は、箒根地区自治会長会の役員を想定しています。校長会や市P連の代表は、それぞれの組織に代表選出をお願いします。	大貫地区
2	審議会委員は、箒根地区内のみ選出となるのか。	お見込みのとおりです。ただし、校長会や市P連代表は箒根地区以外からの選出となります。	大貫地区

No.	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答	参考
3	通学区域審議会の委員には、末端の意見まで吸い上げて審議会に臨んでほしい。また、そうしていただけるよう、各委員に周知徹底してほしい。	承知いたしました。 委員の皆さまにお伝えします。	大貫地区

○今後の進め方／スケジュール関係

No.	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答	参考
1	地域として方向性（案）に対する答えが出ない状況では、発展した意見や協議もしにくい。今後、どのようなスケジュールを考えているのか。	9月中旬に通学区域審議会を開催します。審議会では地域や保護者の代表に委員になっていただきます。通学区域の変更について諮問し、10月中旬に答申をいただく予定です。	横林地区
2	質疑概要中「合意を得て進める」とあるが、実際にどのように判断していくのか。	個別に伺ったり、アンケートなどには行いませんが、説明会等でいただく意見などで判断するほか、通学区域審議会の答申や市議会の議決を受けて進めていきます。 なお、各地区で説明会を開催する中で、地域内である程度意見をまとめる動きもあると聞いています。	就学前
3	同じ小学校区内の自治会で意見が分かれる場合はどうなるのか。	可能な限り意見の集約をお願いしたいと考えますが、集約が難しい場合はそれぞれの意見としてありのまま提示していただければ結構です。 なお、各家庭において、指定校変更制度の利用も含め、個別に判断いただける選択肢を用意しています。	就学前
4	議会で認められなかった場合はどうなるのか。	大貫・横林の廃校を否決するのか、廃校はやむを得ないが義務教育学校は認めないとなるのか、否決の内容によってその後の対応を検討していきます。	就学前
5	代表に出してもらう前に、地域の意見を集約する必要はあるのか。	可能な範囲でそのようにしていただきたいと考えていますが、集約や意見の統一が難しい場合は、各々の御意見を提示していただいても構いません。	横林地区
6	パブリックコメントの周知や意見提出はどのように行われるのか。	各庁舎に計画書を用意し縦覧してもらうほか、市HPや広報で周知します。各自の意見は紙文書で提出できるほか、メール等でも受け付けます。募集期間は概ね1か月程度を予定しています。	大貫地区
7	近隣市町でも相当数の統廃合が行われてきたので、そういう情報やノウハウを取り入れながら、進めてほしい。	学校の統廃合は、近隣市町を始めとして全国的に行われているところですが、子どもたちの学習環境を第一に考えつつ、保護者や地域の皆さまの思いを受け入れながら丁寧に進めてまいります。	自由参加

○児童生徒、保護者及び各地域等への配慮を求める意見

No.	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答	参考
1	今回、教育長に御出席いただいたところだが、前回より出席者が少ない現状をどう理解すればいいのか悩むところ。また、これまで3回にわたる丁寧な説明に感謝する。まだ、方向性は定まっていないが、銘々考えはあると思う。まだ方向性は定まっていないが、3回も説明を受けたからにはいずれ態度を決めなければならないと責任も感じているので、市も地域住民の要望に丁寧に応えていただきたい。	市の考えの中心にあるのは、子どもたちの学習環境です。新要領に基づき、21世紀にどういふ力が必要かを考えたときに、『どのように学ばせるか』ということも非常に重要な要素になってきます。 全国的に義務教育学校が増えています。これまで6・3制が長く続いてきましたが、小学生の学びの欲求に対し、中学教科担任による専門的な授業を実施するなど、市全体で取り組んできました。その理想的な環境が施設一体型義務教育学校です。その理想的な学校づくりができるタイミングが、今だと考えました。 これからの時代に適した教育環境をこの地域に作りたいとの思いがあります。付随する問題は一つ一つ考えていきます。また、つくるからには、他地域からも通ってもらえるような学校にしたいし、通わせやすい条件は整えられるのではないかと考えています。	横林地区
2	小学校は地域の核である。小学校があるから地域が結びついているので、いつまでも残っていてほしいと思っているが、仮に新しい学校になるのであれば、私たちが思う学校にしていきたい。離れた場所になるとどうなるのか心配である。離れていても地域が大事にできる学校にしてほしい。 日々子どもたちと交わすあいさつで元気をもらっている。それが無くなってしまふのが怖い。ふれあいが保てるような仕組みを作っていただきたい。	地域の中で子どもたちが学べる場をつくることを目的に、中学校区を基盤とした地域学校協働本部を新たに立ち上げました。これからの学習は、学校の中だけでは納まらなくなってきました。 箒根地区における地域の学びに、これまで以上に取り組んでいきます。皆さまの思いを盛り込んで、新しい学校をつくっていきます。	横林地区

No.	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答	参 考
3	他地域から通学している小規模特認校制度利用者へのケアが示されていないが、どのように考えているのか。 また、計画素案中「統廃合」と書いてある。今回は「義務教育学校の設立」とし、なるべく学校が無くなるというニュアンスを和らげてはどうか。	小規模特認校制度利用者には、別途個別に懇談等の対応を考えています。 また、計画中の文言についてはいただいた御意見を参考にし、再度内部で検討します。	横林地区
4	これから入学しようとする者への対応と小規模特認校制度利用者へのケアは、特に手厚くお願いしたい。実際に、こんなにいい学校は他にないが、途中で学校が変わることについて躊躇するといった話もよく聞く。	地域の歴史と教育を皆で支えてこられたこと、ありがたく思っています。 そして、その良さを求めて他地区から通われている方々にも感謝しています。 その選択が間違っていなかったとだけ思っただけで、この良さを新しい学校につないでいくとともに、選んでくれた方々へのフォローに最善を尽くします。	横林地区
5	小規模特認校として推進委員を中心に熱心に活動してきたが、それに対する評価がないままに統廃合の話になってしまったのが、正直残念でならない。 この学校を地域の誇りとして大事にしてきたので、こうした説明に入る前に活動に対する評価をしていただきたい。 また、新しい学校でも、地域の良さを必ず受け継いでいっていただきたい。	改めて、そうすべきであったと反省しています。小規模特認校制度は、子どもたちが将来活躍してくれるようになるための提案でありました。 ふるさと大好きであってほしい、またこの地域に戻ってきて、地域で頑張れる人間になってほしいと考え、そのためにはこの地域の匂いを染み込ませ、このフィールドを活用し、皆さまの思いを受け継いでいくことが重要だと思っています。 本校に寄せる思い、これまでの御苦勞、大変ありがたく感じております。	横林地区
6	第2回説明会開催結果によると、箒根中保護者説明会の出席者が2名とあるが、中学校保護者からもっと意見をもらいたいところである。 この状況について、市教委として危機感を感じないか。	対象となる小中学校の全保護者に案内しました。保護者によっては兄弟がいる小学校の部や地域住民対象の部で出席した方、事前のPTA役員説明で内容を把握した方などともいわれますが、計画スケジュール的に現中学生の卒業後の話であることが大きな要因であると考えています。 しかしながら、子どもが卒業した後も地域の一員であるとの思いから真剣に考えている方々もおり、貴重な御意見をいただいておりますので、そうした御意見御要望を踏まえ、また十分な御理解をいただきながら進めてまいります。	大貫地区
7	PTA役員から各保護者に情報が伝達される中で、ある程度役員の考え方が示されてしまう可能性もある。今後も引き続き、在学生の保護者からの意見をより多くいただけるよう努力していただきたい。	必要に応じて、PTAなどへの説明や意見交換を行うほか、パブリックコメントにより個別に意見提出できる機会を設けますので、より多くの御意見をいただきたいと思います。	大貫地区
8	金沢小は地域密着型だった。また、大規模校などでは、どうにかして地域とのコミュニケーションを図ろうと必死であり、小規模校とのギャップを感じたことがある。 こうした現状を承知していただき、新しい学校づくりに反映してほしい。	準備委員会等で保護者や地域の皆さまと協議していく中で、ここでしかないような、外に向かって強くPRできるような取組を実施していきたいと考えています。 また、地域学校協働本部などを通じて、地域で学べるものは積極的に地域に出て行って学ばせたいと思っています。大人になった時に、この地域に戻って、この地域を支える人材になってほしいと考えています。そのためには地域の皆さまとの接触をより多くし、地域の匂いを染み込ませていきたいと思っていますので、皆さまからもより多くのアイデアをいただきながら、より良い学校づくりを行っていきます。	大貫地区
9	赤田・千本松地区に学校を移設する案を提案したい。学校を移転し、外から人を集めようとするのは、相当エネルギーのいることだと思うが、是非検討してほしい。	十分な面積（土地）の確保やゼロから行う施設や通学路の整備など、御意見のとおり相当の期間と費用を要することとなりますので、積極的に取り組むのは難しいと考えますが、計画上、児童生徒数の急激な増減に対しては学区を再編するなどして対応するとしていますので、この案も含めて検討していきます。	大貫地区
10	若い世代が西那須野や大田原に移住してしまっている。子育て世代へのメリットや優遇制度がないと、地域からますます人が離れてしまい、将来が心配である。	特に、高校通学の問題が要因の一つではないかと考えています。公共交通機関も含め、安心して、また過度な負担を強いることなく通学できる環境づくりを、庁内で連携し検討していきます。	箒根保護者
11	以前は高校通学補助金があったが、関谷地区の保護者は毎日駅まで送り迎えをしていて、相当な負担を感じている。 住みよいまちづくりや子育て世代への優遇制度などによって、こうした負担の軽減や他地区への流出を防いでいただきたい。	少子化の波が想像以上に早く、東京都内でも抱えている問題ですが、この地域から子どもが流出するのは、何としてでも止めたいと考えています。是非、この地域で学ばせたいと考えており、そのためにはどこに住んでいても安心して高校に通える条件を整えたいと考えています。 かつて合併時の基金で高校通学補助をしていましたが、基金が無くなり、他地区の状況も考え、やむなく廃止した経緯があります。しかし、これはまちづくりの上でも重要な問題であり、公共交通担当などと問題解決に向けて継続して協議していきます。	箒根保護者

No.	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答	参 考
12	横林地区などは工業団地や県の公園も近くにあり、住み良いところだと思うが、児童数が増えないのが不思議に思う。	<p>高校への通学事情を考えると、交通事情の良い地区に流出してしまう傾向があると思われます。流出により学校だけでなく、地域そのものが縮小してしまうので、まちづくりの観点から考えていかなくてはならないと考えます。</p> <p>そうした中、少しでも地域に魅力をと考え、義務教育学校を提案し、他地区からも人が集まる学校にしていきたいと考えたところです。</p>	<p>帯根保護者</p>